

4. 関連学会での発表

●平成 11 年度

- ・藤岡完治「参加観察とストーリーテリングを取り入れた教員研修」日本教育工学会第 15 回大会、1999 年 10 月
- ・山本光・藤岡完治「学校図書館司書教諭のメディア特性の認識について」日本教育工学会第 15 回大会、1999 年 10 月
- ・藤岡完治 指導講評「静岡大学教育学部附属浜松小学校研究発表大会」、1999 年 10 月
- ・藤岡完治・大島聡 平成11年度横浜国立大学公開講座「マルチメディアワークショップ」講師、1999 年 10-11 月
- ・阿部美和子・藤岡完治「看護臨床実習における『臨床知』の形成に関する研究」第 19 回日本看護科学学会、1999 年 12 月
- ・藤岡完治 講演「新しい『知』を創造する学校」愛媛大学教育学部附属小学校研究発表大会、2000 年 2 月
- ・田中毎実「＜学級＞の日常的構成と歴史的構成」（シンポジウム「＜学級＞の思想」）教育思想史学会第 9 回大会、中央大学駿河台記念館、1999 年 9 月 25 日
- ・岩田康之・竺沙知章・石村雅雄「戦後『教育学部』史研究（5）」日本教育学会第 58 回大会、玉川大学、1999 年 9 月 3 日
- ・石村雅雄「日本での議論の進行状況と課題」（課題別セッション：大学が法人によって運営されることの意味）日本教育制度学会第 8 回大会、信州大学、1999 年 11 月 14 日
- ・石村雅雄「大学生の「学力」問題の現状-京都大学における学生の学びについての調査を通して-」日本教育学会公開研究会、京都大学、1999 年 11 月 21 日
- ・神藤貴昭・石村雅雄「高校と大学における学業の差異を京大生はどのように感じているのか-高校と大学の接続を考えるために-」京都大学高等教育教授システム開発センター第 34 回公開研究会、2000 年 1 月 22 日
- ・石村雅雄「フランスの大学-日本の大学との近さと遠さ-」名古屋大学「世界の大学-21 世紀の『知』を求めて」における講師、2000 年 1 月 24 日
- ・水間玲子・溝上慎一「自己対象化に伴う時間的環境-自己評価規定要因記述における時間軸の有無から」日本心理学会第 63 回大会発表論文集、中京大学、1999 年 9 月 6 日

●平成 12 年度

- ・藤岡完治 講演「神戸大学発達科学部附属住吉小学校研究発表大会」2000 年 6 月
- ・藤岡完治 提案者「大学のカリキュラム改革と授業改善」日本カリキュラム学会、2000 年 7 月
- ・藤岡完治 新潟大学免許法認定公開講座講師、2000 年 8 月 5-6 日
- ・藤岡完治・大島聡・山本光 横浜国立大学図書館司書教諭講習会講師、2000 年 8 月
- ・藤岡完治「大学と附属学校のパートナーシップによる養成教育・現職教育の研究」教育工学関連学協会連合第 6 回全国大会、鳴門教育大学、2000 年 10 月
- ・谷口知司・村瀬康一郎・藤岡完治・菊川健・加藤直樹「衛星放送の特徴を活かした多様

- な教育展開に関する考察」教育工学関連学協会連合第6回全国大会、鳴門教育大学、2000年10月
- ・ 藤岡完治・石村雅雄「授業の参加観察を取り入れたFDの組織化」教育工学関連学協会連合第6回全国大会、鳴門教育大学、2000年10月
 - ・ 藤岡完治「大学授業の参加観察」日本教師学学会第3回大会、早稲田大学、2001年3月
 - ・ 田中每実「学生主体の大学授業における教師の主体性」／「学習／意識・意欲2」部会司会、日本高等教育学会第3回大会、桜美林大学、2000年5月20日
 - ・ 田中每実 シンポジウム「大学のカリキュラム改革と授業改善」構想と司会、日本カリキュラム学会第11回大会、京都大学、2000年7月8日
 - ・ 日本教育学会第59回大会（高等教育部会）、司会、名古屋大学、2000年8月29日
 - ・ 田中每実「大学の授業改善と情報技術革新」特別講演Ⅱ 平成12年度情報処理研究集会、京都大学、2000年12月8日
 - ・ 松坂浩史・石村雅雄「特徴ある公施設法人としてのフランスの大学における契約事業の展開」フランス教育学会第18回大会、清泉女子大学、2000年9月
 - ・ 藤岡完治・石村雅雄「授業の参加観察を取り入れたFDの組織化」教育工学関連学協会連合第6回全国大会、鳴門教育大学、2000年10月7日
 - ・ 石村雅雄「現代大学生の知的状況-教師教育との関わりから」（課題研究）、日本教師教育学会第10回大会、愛知県立大学、2000年10月
 - ・ 神藤貴昭・石村雅雄「高校と大学における学業の差異に関する研究」日本高等教育学会第3回大会、桜美林大学、2000年5月20日
 - ・ 石村雅雄「第三者評価の構想と問題点」大学教育学会第22回大会、千葉大学、2000年6月3日
 - ・ Yasuhiro OYAMA "Community at Crisis through Distance Education"、第6回国際教育学会、プエブラ＝アメリカ大学、メキシコ、2000年5月
 - ・ 大山泰宏「形成的(formative)大学評価のアクションリサーチ」日本高等教育学会3回大会桜美林大学、2000年5月20日
 - ・ 大山泰宏「大学における教授法研究・開発の実践」教育工学関連学協会連合第6回全国大会、鳴門教育大学、2000年10月7日
 - ・ Mizokami,S.,Taguchi,M.,Murakami,M.,& Levis,M.R. 2000 Teaching on the interactive distance lecture between universities: Through the UCLA and Kyoto University joint-project. IV International Congress of Education. (2000年4月24日, Mexico: Universidad de las Americas, Puebla)
 - ・ Mizokami,S.,Ozaki,H.,& Mizuma,R. 2000 Past-present-future structural patterns for the self of here and now: Reconsideration of the time concept. Conference Program and Abstract Book (First International Conference on the Dialogical Self), p.64. (2000年6月23-26日, The Netherlands:University of Nijmegen)
 - ・ 神藤貴昭・尾崎仁美「大学授業における授業者のストレス過程(1)ーストレスサー、対処行動の分類とストレス過程の質的検討ー」日本教育心理学会第42回大会、東京大学、2000年9月16日
 - ・ 尾崎仁美・神藤貴昭「大学授業における授業者のストレス過程(2)ーストレス対処か

- らみた授業者の成長」日本教育心理学会第 42 回大会、東京大学、2000 年 9 月 16 日
- ・神藤貴昭・田口真奈・村上正行「KKJ 実践における授業設計と教員の役割」教育工学関連学協会連合第 6 回全国大会、鳴門教育大学、2000 年 10 月 7 日
- ・田口真奈・村上正行・尾澤重知・神藤貴昭「KKJ 実践におけるインターネットの役割」教育工学関連学協会連合第 6 回全国大会、鳴門教育大学、2000 年 10 月 7 日
- ・神藤貴昭「企業における職務ストレスに関する研究－上場企業の男子社員について－」日本発達心理学会第 15 回大会、鳴門教育大学、2001 年 3 月 27 日

●平成 13 年度

- ・藤岡完治・石村雅雄「大学授業の参加観察プロジェクト報告（その 1）－大学授業の参加観察から FD へ－」日本高等教育学会第 4 回大会、北海道大学、2001 年 5 月 25 日
- ・藤岡完治「大学授業の参加観察（その 2）－授業の構造と学生感想の関連から－」日本教育工学会第 17 回大会、鹿児島大学、2001 年 11 月
- ・藤岡完治 企画シンポジウム「大学生への自己理解教育実践」指定討論 日本発達心理学会第 13 回大会、早稲田大学、2002 年 3 月
- ・田中毎実「大学教育の教授法・カリキュラム開発（課題研究Ⅱ 大学における FD カリキュラムの実践と課題）」日本カリキュラム学会第 12 回大会、東北大学、2001 年 6 月 30 日
- ・田中毎実「ラインの向こうとこちら－遠隔ゼミにおける学生集団・教員集団の異文化性」（平成 13 年電気・情報関連学会連合大会／日本学会シンポジウム：バーチャル・ユニバーシティと教育改革）2001 年 9 月
- ・田中毎実「京都大学の FD プロジェクト」（日本教育工学会、鹿児島大学）2001 年 10 月
- ・田中毎実 シンポジウム「＜学力論＞の問題圏」司会（教育哲学会、福岡教育大学）2001 年 10 月
- ・田中毎実「臨床的人間形成論の成立可能性」（臨床人間学研究会、青山大学）2001 年 12 月
- ・石村雅雄「国公立大学における教養教育の評価」（研究交流部会指定報告者）大学教育学会第 23 回大会、桃山学院大学、2001 年 6 月 10 日
- ・松下佳代「自ら学び、考える力をどうとらえ、いかに評価するか－教科教育・学力論の立場から－」（教育目標・評価学会公開シンポジウム「自ら学び、考える力をどうとらえ、いかに評価するか」）、作新学院大学、2001 年 10 月
- ・大山泰宏 日本心理臨床学会第 21 回全国大会「自主シンポジウム－夢と身体」日本大学、2001 年 9 月
- ・大山泰宏「多層的リアリティ構成を通じた教養教育の可能性」日本教育工学会第 17 回全国大会、鹿児島大学、2001 年 10 月
- ・溝上慎一「相互行為のある授業を意味構造の変化として捉える－ポジション理論を導入して－」大学教育学会第 23 回大会、桃山学院大学、2001 年 6 月 9 日
- ・溝上慎一・尾崎仁美「大学生の将来の見通しを求める学年の文脈－「今優勢」「将来優勢」の観点から－」日本教育心理学会第 43 回大会、愛知教育大学、2001 年 9 月

- ・溝上慎一「抽象度の高い自己・アイデンティティの概念から具象度の高い質的世界の理解を目指して―事例から一般化をはかるボトムアップ―」小沢一仁・溝上慎一自主シンポジウム「われわれは「アイデンティティ」「自己」研究から青年の何を理解したか?―「青年理解」に向けての枠組みと方法論的示唆―」日本教育心理学会第 43 回大会、愛知教育大学、2001 年 9 月
- ・溝上慎一「京都大学公開実験授業における検討会の新たな構造化を目指して」日本教育工学会第17回全国大会、鹿児島大学、2001 年 11 月
- ・藤田哲也・溝上慎一「大学授業における授業通信の効果―学生とのコミュニケーション・ツールを超えて―」日本教育工学会第 17 回全国大会、鹿児島大学、2001 年 11 月
- ・村上正行・田口真奈・溝上慎一「日米間遠隔一斉講義における共同学習の有効性」日本教育工学会第 17 回全国大会、鹿児島大学、2001 年 11 月
- ・溝上慎一「会員企画シンポジウム「大学生への自己理解教育実践」企画及び話題提供「自己理解教育の授業研究―自己理解を促す授業デザインとは―」」日本発達心理学会第 13 回大会、早稲田大学、2002 年 3 月
- ・溝上慎一「ラウンドテーブル「アイデンティティとダイナミズム」企画及び指定討論」日本発達心理学会第 13 回大会、早稲田大学、2002 年 3 月
- ・神藤貴昭・伊藤崇達・久木山健一・西田裕紀子・木村朋子・齊藤誠一 「現代中学生の不適応に関する基礎的研究(8)―衝動的暴力抑制方略について―」日本教育心理学会第 43 回大会、愛知教育大学、2001 年 9 月
- ・MURAKAMI, M., OZAWA, S., SHINTO, T., TAGUCHI, M. & TANAKA, T.(2001) "Analysis of Communication between Groups on Web Board in Distance Seminar with Lodging", ICCE2001, Seoul, Korea, 2001 年 11 月
- ・神藤貴昭・田口真奈・村上正行「大学における学生主導型授業の可能性―授業枠のゆらぎ―」日本教育工学会第 17 回全国大会、鹿児島大学、2001 年 11 月
- ・神藤貴昭・伊藤崇達「高校から大学への学業文化の変容に対する適応過程について(1)―京都大学への進学者における学習方略の変容―」日本発達心理学会第 16 回大会、早稲田大学、2002 年 3 月
- ・伊藤崇達・神藤貴昭「高校から大学への学業文化の変容に対する適応過程について(2)―共分散構造分析による因果モデルの検証―」日本発達心理学会第 16 回大会、早稲田大学、2002 年 3 月

●平成14年度

- ・藤岡完治・杉原真晃「相互研修としての FD ―公開実験授業の検討会の構造分析を通して―」日本高等教育学会第 5 回大会、愛知学院大学、2002 年 5 月
- ・田中每実 日本教育心理学会第 44 回大会課題研究(熊本大学) 2002 年 10 月
- ・田中每実 京都大学高等教育教授システム開発センター 特別シンポジウム The Virtual University - Future of our Universities? Open Remarks 2002 年 10 月
- ・松下佳代「《二つの学力》論を超えて」日本教育方法学会シンポジウム「教科と総合的学習によって育む新しい学力のあり方」、日本女子大学、2002 年 9 月
- ・松下佳代「ミクロレベルからの改革―大学授業ネットワークプロジェクトの構想―」関

- 西教育学会第 54 回大会（課題研究「大学教育の改革」）、龍谷大学、2002 年 10 月
- ・ 松下佳代「授業研究と授業実践のあいだーパラダイムと方法論の自覚化ー」第 2 回大学教育研究集会（授業研究部会 C 総括講演）、京都大学、2003 年 3 月
 - ・ 古屋敬子・桑原晴子・飯野秀子・石原宏・皆藤章・大山泰宏 「映像メディアを用いた事例研究法（ケースメソッド）の開発研究Ⅰーその 1 箱庭制作過程を通して」、日本心理臨床学会第 22 回全国大会、中京大学、2002 年 9 月
 - ・ 桑原晴子・古屋敬子・飯野秀子・石原宏・皆藤章・大山泰宏 「映像メディアを用いた事例研究（ケースメソッド）システムの開発研究Ⅰーその 2 臨床家訓練法としての可能性」、日本心理臨床学会第 22 回全国大会、中京大学、2002 年 9 月
 - ・ 飯野秀子・石原宏・古屋敬子・桑原晴子・須藤春佳・鳥生知江・皆藤章・大山泰宏 「事例研究（ケースメソッド）システムの開発の観点から見た箱庭制作過程の検討」、日本箱庭療法学会第 16 回大会、武庫川女子大学、2002 年 9 月
 - ・ Tsunemi TANAKA, Yasuhiro OYAMA “The Virtual University -The Future of our Universities?”, International Conference for Online Education, Research Center for Higher Education, Kyoto University, Oct. 2002.
 - ・ Yasuhiro OYAMA “The Impacts of IT and the New Educational Theme -the Case of Japan” Coloquio Internacional sobre Calidad en la Educación, Universidad de las Américas Puebla, Mexico.
 - ・ 溝上慎一 自主シンポジウム「大学生活を支援する自己理解教育実践ー学びとの接合を目指してー」企画及び話題提供「自己理解教育の授業概要と授業デザイン」日本教育心理学会第 44 回総会発表論文集、S42-S43、熊本大学、2002 年 10 月
 - ・ 溝上慎一 白井利明企画・自主シンポジウム「発達文脈主義からみた青年期ーコールマンの焦点理論ー」指定討論。日本教育心理学会第 44 回総会発表論文集、S36-S37、熊本大学、2002 年 10 月
 - ・ 尾崎仁美・溝上慎一「将来の見通しを求めない学年の文脈ー「今優勢」「将来拒否」の観点から」日本教育心理学会第 44 回総会発表論文集、394 頁、熊本大学、2002 年 10 月
 - ・ 溝上慎一「学びの導入教育としての自己理解教育実践ー大学生活の視点からのアプローチー」日本教育工学会第 18 回全国大会講演論文集、447-448 頁、長岡技術科学大学、2002 年 11 月
 - ・ 溝上慎一「学問や知識を我世界に位置づけながら構成的に学ぶ」学会企画シンポジウム「こんな力を育てたい、育ててほしい」パネリスト。経済学教育学会第 18 回大会記念講演・シンポジウム講演要旨集、京都大学、2002 年 11 月
 - ・ Mizokami, S.“Development of the course to support university students’ learning: Beyond the freshman seminar”Paper presented at The 8th International Conference. Globalization and Localization Enmeshed: Searching for a Balance in Education. Keynote Address, Panel Discussions, Paper Presentation Abstracts, p.94. Chulalongkorn University, Thailand, 19th November 2002
 - ・ 溝上慎一・松下佳代「ボトムアップ式の広義 FD への拡張ー授業現場から出発するー」第 2 回大学教育研究集会・第 9 回大学教育改革フォーラム発表論文集、56-57 頁、京都

大学、2003 年 3 月

- ・ 神藤貴昭「高校から大学への学業文化の変容に対する適応過程について(3)ー大学に入学して何に驚いたかー」日本教育心理学会第44回大会、熊本大学、2002 年 10 月
- ・ SHINTO, T., & TAGUCHI, M." Change of Using the Information Technology in the Classroom-from the Survey for Japanese Higher Education Institution from 1999 to 2001-1" (International Conference: Globalization and Localization Enmeshed: Searching for Balance in Education. November 21, 2002 Bangkok, Thailand)
- ・ 神藤貴昭・尾崎仁美「大学授業における授業者のストレス過程(3)ーストレスサーの構造とその個人差ー」日本発達心理学会第17回大会、兵庫教育大学、2003 年 3 月

●平成 15 年度

- ・ 松下佳代「〈下から・内から〉の大学教育改革」教育目標・評価学会（公開シンポジウム「高等教育の人づくりと企業社会の人づくり」）、東洋大学、2003 年 5 月
- ・ 松下佳代「一年次教育と学生支援」（ラウンドテーブル「一年次教育と学生支援」指定討論）、大学教育学会第 25 回大会、大阪薬科大学、2003 年 6 月
- ・ 松下佳代「教師の『授業スタイル』にかかわる力量形成へのライフヒストリー的アプローチ 寺岸和光実践 ー」日本教育方法学会第 39 回大会（ラウンドテーブル①「教師の『授業スタイル』にかかわる力量形成へのライフヒストリー的アプローチ」）、滋賀大学、2003 年 9 月
- ・ 松下佳代「算数・数学の学力をどう測るかーアチーブメント・テストとパフォーマンス・アセスメントー」教育目標・評価学会（課題研究 A「学力テストの時代」）、一橋大学、2003 年 10 月
- ・ 松下佳代「大学の授業実践と授業研究をつなぐ」第 3 回大学教育研究集会（総括講演）、京都大学、2004 年 3 月
- ・ 大山泰宏 日本心理臨床学会第 22 回全国大会 「自主シンポジウムー日本における夢分析」、中京大学、2003 年 9 月
- ・ 溝上慎一・村上正行・杉原真晃「Web 配信による大学授業ネットワークと FD（ファカルティ・ディベロップメント）の可能性」大学教育学会第 25 回大会発表要旨収録、420-443 頁、大阪薬科大学、2003 年 6 月
- ・ 溝上慎一 「京都大学の事例」中村博幸企画ラウンドテーブル「大学教育に関するガイドランス教育ー個々の教員に大学教育を理解してもらうためにー」大学教育学会第 25 回大会、大阪薬科大学、2003 年
- ・ 神藤貴昭「一斉型大学授業における授業者の「授業フレーム」調整」日本教育心理学会第 45 回大会、大阪教育大学、2003 年 8 月
- ・ 小石寛文・余部千津子・門田幸太郎・伊藤崇達・神藤貴昭・加藤司「教育力の地域差に関する研究（4）ー子どもの発達環境に関する親の自由記述分析ー」日本教育心理学会第 45 回大会、大阪教育大学、2003 年 8 月
- ・ 溝上慎一 小講演「自己世界の構築過程を表現する自己理論ーポジションとポジショニングー」日本心理学会第 67 回大会発表論文集、S28、東京大学、2003 年 9 月
- ・ 溝上慎一・藤田哲也 自主ワークショップ「心理学者と大学教育ー理論と実践ー」企画

- ・司会．日本心理学会第67回大会発表論文集、S37、東京大学、2003年9月
- ・溝上慎一「大学新入生の学業生活への適応過程(1)－横断データと縦断データの双方から－」日本心理学会第67回大会発表論文集、1203頁、東京大学、2003年9月
- ・溝上慎一 話題提供 西條剛央企画・自主ワークショップ「多」の中の「個」をどのように捉えるか」日本心理学会第67回大会発表論文集、S60、東京大学、2003年9月
- ・杉浦健・尾崎仁美・溝上慎一「大学は何をする場所？(1)－大学生の大学観と大学生のあり方との関連について－」日本心理学会第67回大会発表論文集、1198頁、東京大学、2003年9月
- ・尾崎仁美・杉浦健・溝上慎一「大学は何をする場所？(2)－大学観による類型化の試み－」日本心理学会第67回大会発表論文集、1199頁、東京大学、2003年9月
- ・溝上慎一「大学新入生の学業生活への適応過程(2)－大学生活における学業の位置づけ効果－」日本青年心理学会第11回大会発表論文集、58-59頁、大阪大学、2003年10月
- ・溝上慎一「ポジション・チェンジを促す大学の授業検討会－世界観を相対化させるポジショニング概念をもとに－」第3回大学教育研究集会・第10回大学教育改革フォーラム発表論文集、36-37頁、京都大学、2004年3月
- ・山田剛史・溝上慎一「大学教育における対面環境での縦構造を組み込んだ協調学習」第3回大学教育研究集会・第10回大学教育改革フォーラム発表論文集、30-31頁、京都大学、2004年3月
- ・溝上慎一「大学生の自己形成プロセスに現れる「今」「ここ」と時間的展望」都筑学企画ラウンドテーブル「時間的展望研究の新しい可能性－関連する研究領域とのコラボレーションから見えてくるもの－」日本発達心理学会第15回大会発表論文集、S142、白百合女子大学、2004年3月
- ・溝上慎一「構造的に語りを掬うカード構造化法－仮説検証的な面接法－」やまだようこ企画・自主シンポジウム「質的心理学の方法論(1)－「語る」身体の「語り」を掬う－」日本発達心理学会第16回大会、神戸大学、2004年3月
- ・神藤貴昭・村上正行・田口真奈「京鳴バーチャル教育大学(KNV)実践における学び」日本教育工学会第19回全国大会、岩手県立大学、2003年10月
- ・村上正行・神藤貴昭・曾根直人「遠隔ゼミにおける受講生のメディア活用」日本教育工学会第19回全国大会、岩手県立大学、2003年10月
- ・神藤貴昭・村上正行・河合紀子「京鳴バーチャル教育大学(KNV)実践における電子掲示板の使用」日本発達心理学会第15回大会、白百合女子大学、2004年3月
- ・KOISHI, K., MONDEN, K., AMABE, C., ITO, T., SHINTO, T., KATO, T., SEO, B., & WANG, S. The Cultural Difference of Parent' and Teachers' Disciplinary Attitudes. International journal of psychology (abstracts of the XXVIII international congress of psychology, 2004, Beijing, China.

●平成16年度

- ・田中每実 大学教育学会26回大会(北海道大学)シンポジウム1「大学教育の接続」(司会)2004年6月

- ・松下佳代「学習共同体の生成と個の学び」日本教育方法学会（課題研究Ⅰ『学習共同体』論の現在）、和光大学、2004年10月
- ・松下佳代・石井英真・遠藤貴広「パフォーマンス・アセスメントの方法と意味— JELS 2003・Wave1の実施をふまえて—」教育目標・評価学会、滋賀大学、2004年11月
- ・松下佳代「評価する側の論理、評価される側の論理」第11回大学教育研究フォーラム、京都大学、2005年3月
- ・松下佳代「相互研修型FDの組織化による教育改善（中間成果報告）」第11回大学教育研究フォーラム・ラウンドテーブル、2005年3月
- ・Ozaki, H., & Mizokami, S. "Grade differences for university students seeking or not seeking future perspectives" Paper presented at Third International Conference on the Dialogical Self. Book of Abstracts, p.64, Warsaw School of Social Psychology, Poland, 2004年8月
- ・Mizokami, S. "Reciprocating movements between self and other involved in the self-awareness" Paper presented at Third International Conference on the Dialogical Self. Book of Abstracts, p.58, Warsaw School of Social Psychology, Poland, 2004年8月
- ・溝上慎一「促進状況を作り出す自己組織化的な場」藤田哲也・安永悟企画・自主ワークショップ「心理学者、大学教育への挑戦—学生の観点に立った学び支援—」日本心理学会第68回大会、関西大学、2004年9月
- ・溝上慎一「大学教育研究とボトムアップ人間関係論」サトウタツヤ企画・自主ワークショップ「ボトムアップ人間関係論の構築」日本心理学会第68回大会、関西大学、2004年9月
- ・溝上慎一「指定討論」大野久企画・自主シンポジウム「生育史分析（伝記分析）の有効性と具体的方法」日本教育心理学会第46回総会、富山大学、2004年10月
- ・溝上慎一「指定討論」山田剛史・奥田雄一郎企画ラウンドテーブル「大学生心理学の構築—青年心理学と大学教育学の架橋—」第11回大学教育研究フォーラム、京都大学、2005年3月

●平成17年度

- ・田中毎実 大学教育学会 27 回大会（京都大学）シンポジウム 2「大学教育改革と大学教育学会」（司会）2005年6月
- ・田中毎実「ライフサイクルと世代連関における青年」日本教育学会第67回大会大会（東京学芸大学）・公開シンポジウム「現代青年論の再考」2005年8月
- ・Mizokami, S. "The spurt of self-construction as a self-generative system" XIIth European Conference on Developmental Psychology, Spain: Universidad de La Laguna, 2005年8月